まぬけでゆかいな

# どろぼう話

木暮正夫・文

原ゆたか・絵

**木暮正夫**（こぐれ　まさお）
1939年，群馬県前橋市に生まれる。高校卒業後，児童文学を書くようになる。主な作品に，『ドブネズミ色の街』（理論社）『かっぱ大さわぎ』（旺文社）『二ちょうめのおばけやしき』『三ちょうめのおばけ事件』（いずれも岩崎書店）などがある。

**原ゆたか**（はら　ゆたか）
1953年，熊本県に生まれる。1974年，KFSコンテスト・講談社児童図書部門賞受賞。主な作品に，『よわむしおばけ』（理論社）「ほうれんそうマン」シリーズ，『名門フライドチキン小学校』（いずれもポプラ社）などがある。


日本のおばけ話・わらい話4
まぬけでゆかいなどろぼう話

発　行　1986年9月20日　第1刷発行
1987年2月28日　第3刷発行

文　木暮正夫
絵　原ゆたか
発行者　大川松利
発行所　岩崎書店
東京都文京区水道1－9－2　〒112
電話812・9131　振替　東京7－96822
印　刷　新興印刷製本株式会社
製　本　小高製本工業株式会社


© 1986　Masao Kogure & Yutaka Hara


Published by IWASAKI SHOTEN, Tokyo, Japan
ISBN4-265-02404-1　NDC 388


落丁本・乱丁本はおとりかえいたします

まぬけでゆかいな

# どろぼう話

木暮正夫・文

原ゆたか・絵

# もくじ


1 つもりどろぼう P. 4

2 どろぼうの どろぼう P. 11

3 どろぼうの へんじ P. 14

4 かきどろぼう P. 18

5 かまどろぼう P. 22

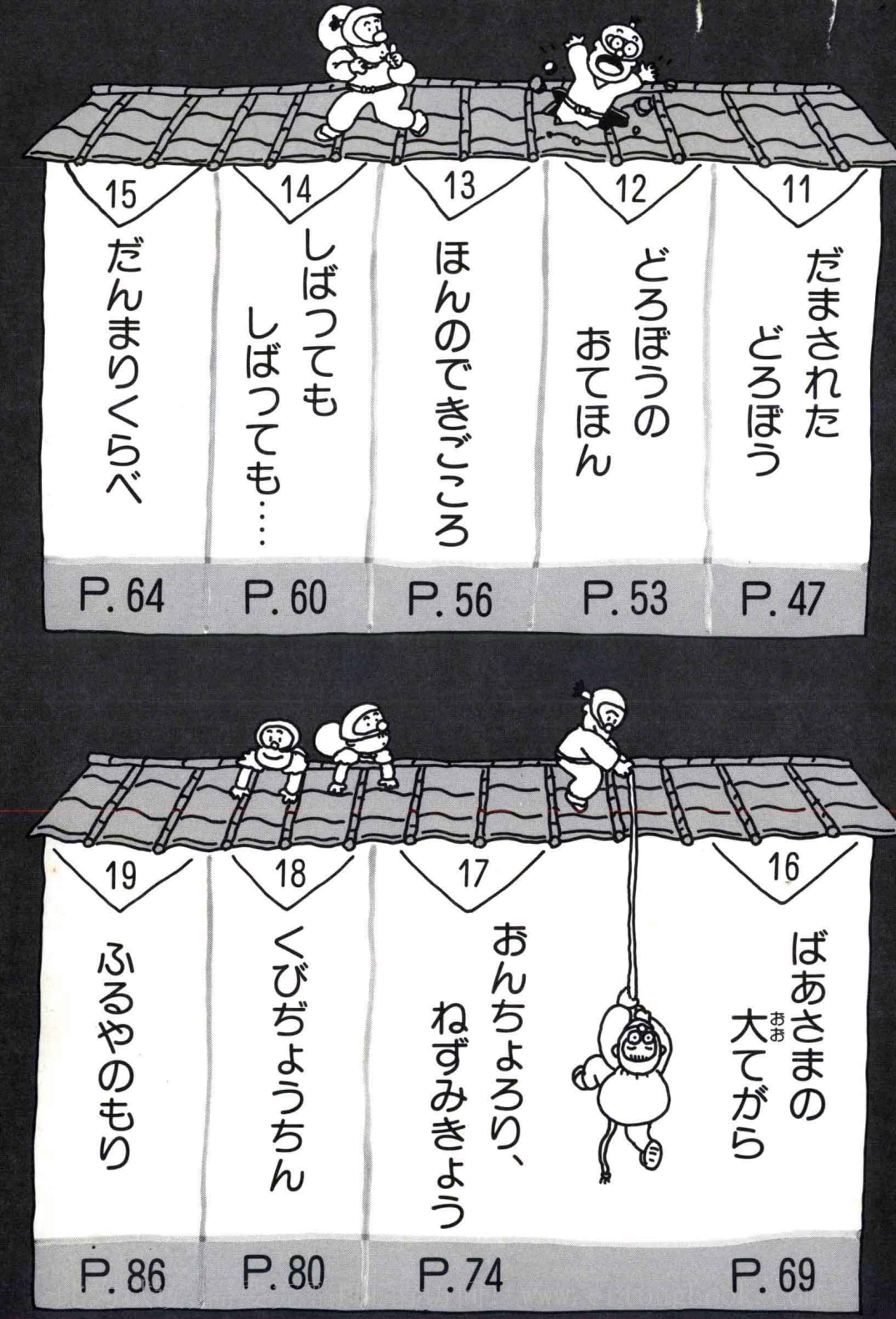
6 どろぼうの おとしもの P. 25

7 どろぼう たいじのべ P. 30

8 あてはずれ P. 39

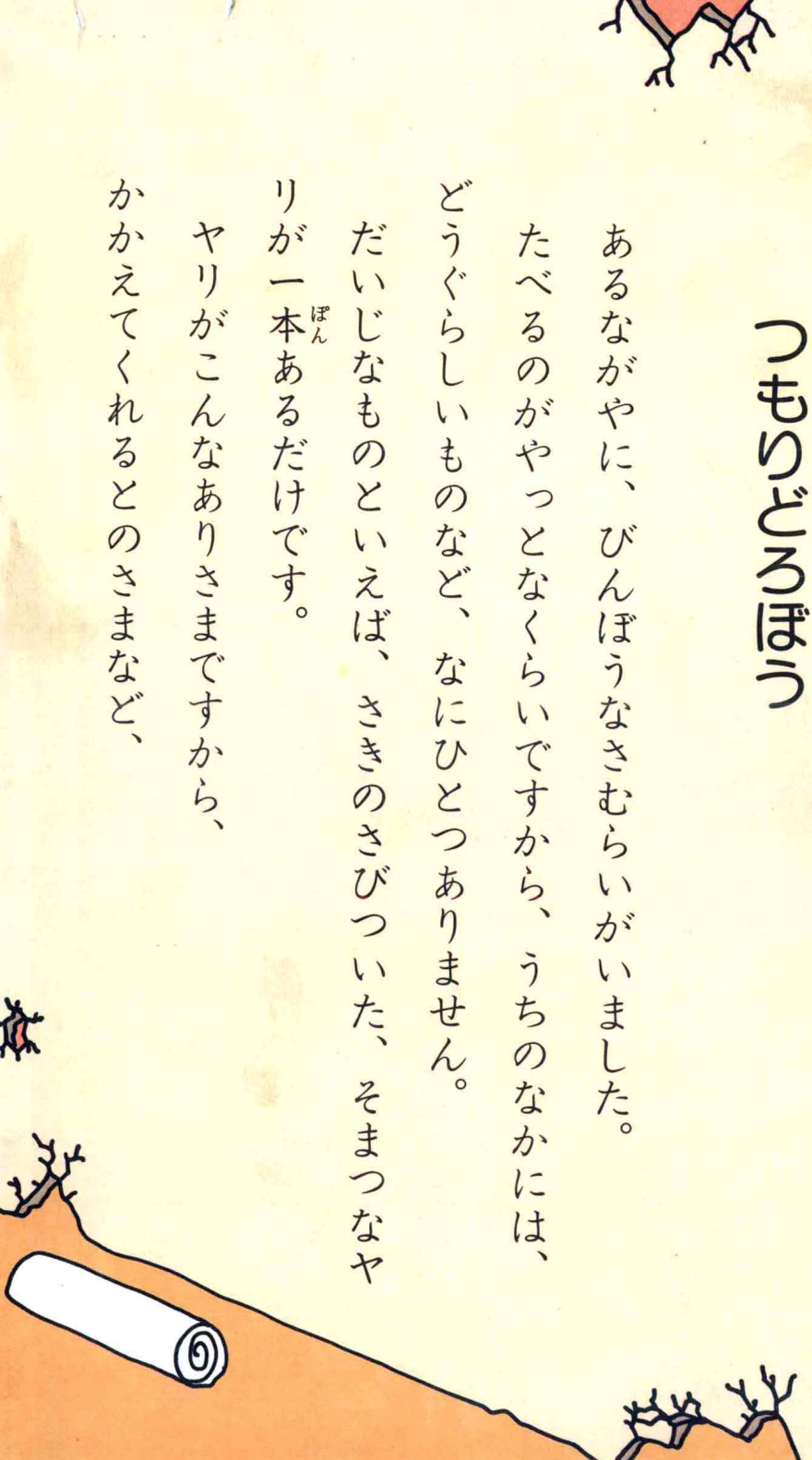
9 かげぼうしの へんじ P. 41

10 しりちがい P. 44


11 だまされた どろぼう P. 47
12 どろぼうの おてほん P. 53
13 ほんのできごころ P. 56
14 しばっても しばっても…… P. 60
15 だんまりくらべ P. 64
16 ばあさまの 大てがら P. 69
17 おんちょろり、 ねずみきょう P. 74
18 くびぢょうちん P. 80
19 ふるやのもり P. 86

# つもりどろぼう

あるながやに、びんぼうなさむらいがいました。
たべるのがやっとなくらいですから、うちのなかには、
どうぐらしいものなど、なにひとつありません。
だいじなものといえば、さきのさびついた、そまつなヤ
リが一本あるだけです。
ヤリがこんなありさまですから、
かかえてくれるとのさまなど、



みつかるわけもありません。

さむらいは、まいにち、
ひまをもてあましていました。
あくびと、びんぼうゆすりの
くりかえしです。

「そうだ。たいくつしのぎに、いいことをおもいついたぞ」

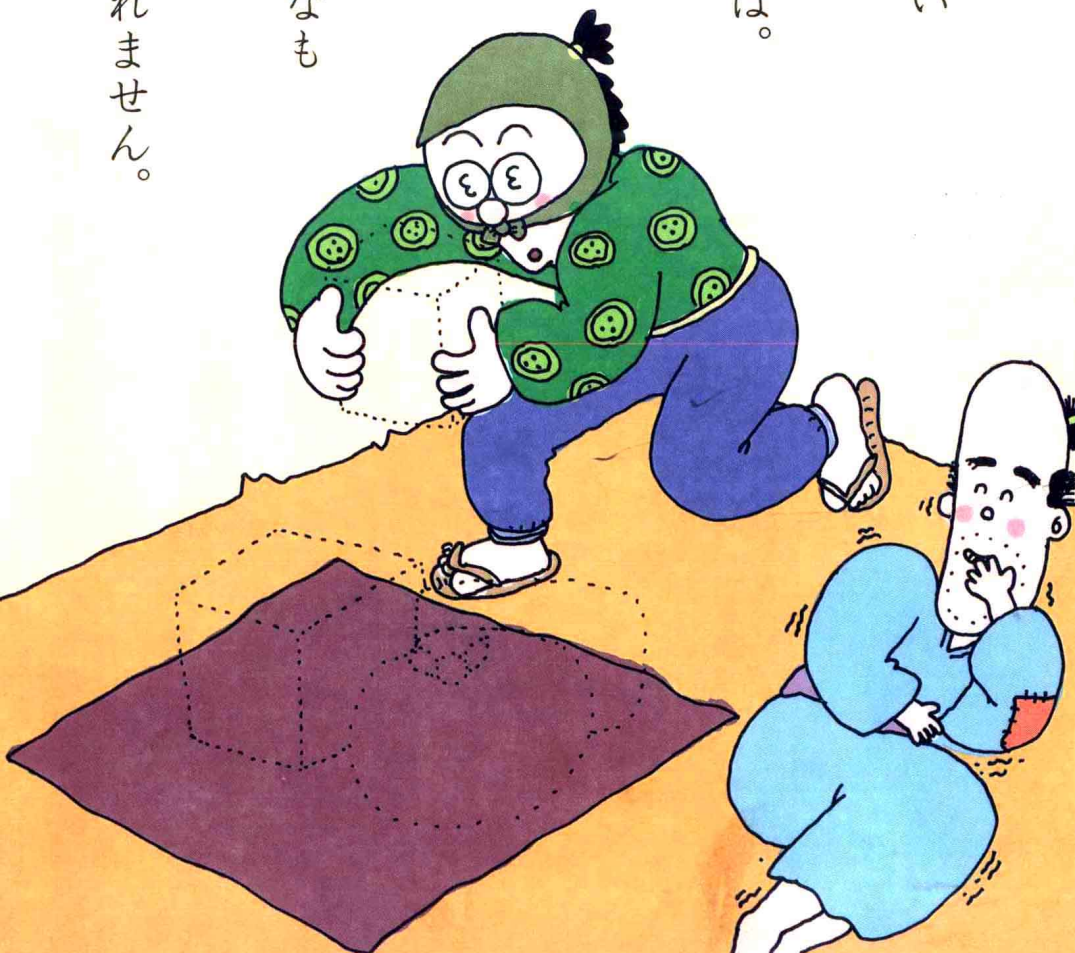
さむらいは、かみをひろげると、なれない絵ふでをとって、たんすや戸だなや、火ばちをかきました。火ばちには、やかんもかきました。

そして、かべにはりつけました。

「たとえ絵とわかっていても、ないよりはまし。ずいぶん、うちらしくなったわい」

さむらいは絵をながめて、よろこんでいました。
ところが、あるばんのこと。さむらいがねて
いると、こそどろがしのびこんできました。
こそどろは、ひどい
きんがんでした。
「おっ、これはりっぱな
たんすがあるぞ」
こそどろは、たんすに
手をかけました。

「いやにひらべったい
たんすだなぁ……。
ややっ、なんだこれは。
かみにかいた絵だ。
どろぼうをだます
なんて、とんでも
ないやつだ」
よくみると、戸だなも
火ばちも、絵。
これでは、なにもとれません。



「せっかくはいったのに、なにもとらずにかえったのでは、どろぼうの名おれ。せめて、とったつもりになろう。よし、ひきだしをあけて、きものをぬすんだつもり。おびも、おかねもぬすんだつもり。ぬすんだものを、ふろしきにつつんだつもり。

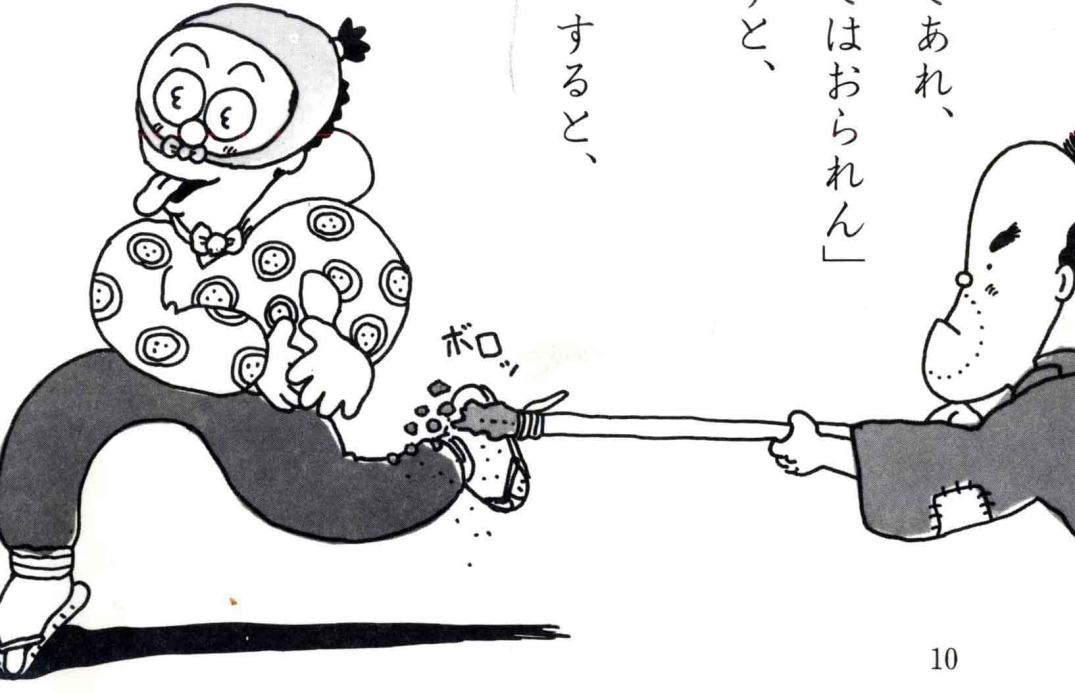
どっこいしょっと、かついだつもり……」

こそどろが、おかしなことをはじめたけはいに、ふと目をさましたさむらいは、はじめのうちこそ、くすくすわらっていましたが、そのうちに、だんだん、はらがたってきました。



此为试读，需要完整PDF请访问：www.ertongbook.com

「たとえ絵にかいたしなものであれ、
ぬすまれるのを、だまってみてはおられん」
さむらいは、ヤリをとりだすと、
「おのれ、こそどろめ！」
えいっ、とつきだしました。すると、
こそどろもこころえたもの。
「ぶすっと、ヤリで
さされたつもり」
わきばらをおさえて、
すたこら、にげだしましたと。



# どろぼうのどろぼう

ここは、どろぼうたちのかくれがです。
あるとき、どろぼうたちがしごとを
すませて、かくれがにひきあげてきました。
「やあ、うまくいったぞ」
「おれも、すっかり、うでがあがったわい」
めいめいが、じまんばなしなど
していますと、おやぶんがいいました。

「これから、わけまえをきめる。ぬすんできたものをここにだせ」

「へい！」

どろぼうたちは、ぬすんできたしなものを、のこらず、おやぶんのまえにだしました。

ところが、おやぶんが、ちょっと目をはなしたすきに、

さっきまでたしかにあった、りっぱなさいふがみえません。だれかが、すばやく、とったのです。おやぶんはおこりました。

「さては、このなかに、どろぼうがいるな！どろぼうのものを、どろぼうするとは、とんでもないやつだ！」

# どろぼうのへんじ

「まてえ！」

どじなどろぼうが、

ある家にしのびこんで、

あるじにみつかってしまいました。

あるじは、きのつよい男とみえ、

どろぼうをおいかけました。

「まて、まてーッ！」

どこまでも、おいかけてきます。
どろぼうは、むがむちゅうでにげましたが、とうとう、川ばたにおいつめられてしまいました。
「なむさん！」
どろぼうはザンブと、川にとびこんで、橋のしたのくいにしがみついて、かくれました。

此为试读，需要完整PDF请访问：www.ertongbook.com